



榎野川河口干潟再生活動2026について



山口県環境保健センター

日程・注意事項

榎野川河口干潟再生活動2026

参加者の皆様へ

2026年5月2日(土) 12:30~15:30

「里海づくり」の一環として、地元産アサリを復活させ、子どもたちが潮干狩りを楽しめる干潟を再生する活動を行っています。また、アサリのほか、ゴカイや野鳥、魚など様々な生き物が集まり、「生物多様性」を維持・向上させる「ネイチャーポジティブ」な活動を目指しています。

- | | |
|---------|---|
| 12:30 ~ | 受付・榎野川の恵みを味わう試食会（山菜の天ぷら等） |
| 13:00 ~ | 開会式・活動説明 |
| 13:30 ~ | 干潟に移動開始 ※車の乗り合いをお願いします！ |
| 13:45 ~ | 干潟で活動開始 網袋の設置(A、B、C各グループの場所)
A アサリ再生・採捕、B 網袋開封、C 生物観察会 |
| 15:30頃 | 記念撮影、アサリ放流、アンケート |

主催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所、榎野川河口域・干潟自然再生協議会
協力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)伊藤園山口支店、水産大学校、積水ハウス(株)山口工場、人間環境大学、山口大学

必ずお読みください

榎野川河口干潟の「里海づくり」の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

活動に当たって、以下を必ずお読みいただき、同意の上、ご協力をお願いいたします。

- 1 **水分・塩分補給を適宜行い、熱中症対策をしっかりとお願いします。**
- 2 活動場所にトイレはありません。開会式会場のトイレ、幸崎公園をご利用ください。
- 3 海岸は、足下が滑りやすいので注意してください。
干潟は、場所によって身動きができなくなるほど足が埋まる場合があります。スタッフが指示した場所以外は絶対に入らないでください。
- 4 干潟の駐車場は、台数が限られています。地域の方にご迷惑をかけないよう、開会式会場からの移動は、できるだけ周りの方と乗り合いをお願いします。移動時、駐車に事故に十分お気をつけください。
- 5 絶滅危惧種の「カブトガニ」が生息しています。小さな幼生は、2~3cmの大きさです。
足元を気にしながら歩き、観察する際は、なるべく元の場所にもどしてください。
- 6 また、干潟には、クラゲやエイなど毒をもつ生物や、突起物・鋭利なカキ殻等があります。足元や周りに注意し、危険なものは触らないようにしてください。
- 7 万が一けがなどがあつた場合は、スタッフにお申し付けください。イベント中の事件・事故・怪我等については、主催者(榎野川河口域・干潟自然再生協議会)が加入する保険の支払範囲内で対応します。
- 7 イベントで撮影した写真は、広報資料として、関連ホームページ、ニュースレターなどに使用しますのでご了承ください。
- 8 アサリなどの魚介類には漁業権が設定されています。**県漁協の許可なく持ち帰ることはできません。**



日程・注意事項

活動の前に・・・榎野川流域の恵みをご用意しました。

森



榎野川連携促進協議会

山菜の天ぷらの試食：**無料**
数に限りがございます。ご了承ください。



榎野川漁協 販売

限定60食

海

持続可能な里海づくりWG 販売

限定60セット



あゆの塩焼き



あゆ飯



ふしのせんべい
+ アサリ保護網袋セット

昨年寄附実績 34,000円 ご協力ありがとうございます。

会場(漁協)から干潟へのルート



国土地理院
<http://maps.gsi.go.jp/#14/34.017522/131.432619/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0I0u0t0z0r0f0>

協議会委員の皆様は、スタッフの補助や、参加者への声掛けを積極的に行っていただきますようお願いいたします。

干潟再生活動MAP

A、B、Cの各フラッグに集合

(受付で配布するアサリカードに記載)

準備はOK？

入口(スコップ貸出)

危険

A

網袋+潮干狩り体験



網袋

A

B

C

C

網袋+
生物観察会



B

網袋+開封



- ・汚れてもよい服
- ・タオル ・帽子
- ・飲み物 ・軍手 ・長靴
- ・スコップ、熊手(貸出あり)
- ・アサリカード:受付で配布(A、B、Cグループ記載)
- ・赤い網袋(寄附付き商品)



網袋 ABC みんなでアサリ稚貝保護

～花（網袋）咲く干潟～

アサリの稚貝を表砂ごと網袋に入れ、保護・育成します。（現地で青網袋配布）



表砂(3cm)を採取(スコップで10回)



口を結ぶ、移動



杭固定

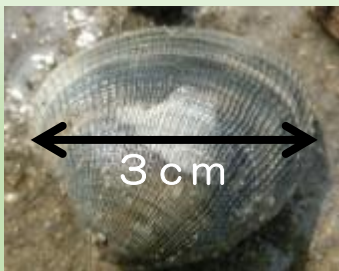
A

アサリ網交換・潮干狩り体験

破損した被覆網を交換(食害防止)し、潮干狩りを体験します。



破損した網を撤去、新網を張る



3cm以上・未満のアサリを選別

B

網袋開封・放流

～干潟にタネまき～

昨年度設置した網袋から、1cm程度のアサリを取り出し、被覆網下に放流します。



網袋を開け、中の砂をふるう



計量後、干潟に放流、網を張る



C

生き物観察会

～魅力再発見～

カブトガニなどの様々な生き物を探します。0歳～参加者あり。大阪市立科学博物館



活動の実績(過去3年)

設置した網袋

500袋超

網袋で保護した稚貝(推計 最大)

11万個 (111kg)

採捕したアサリの量
徐々に回復!

20kg

(アサリ汁200杯分)

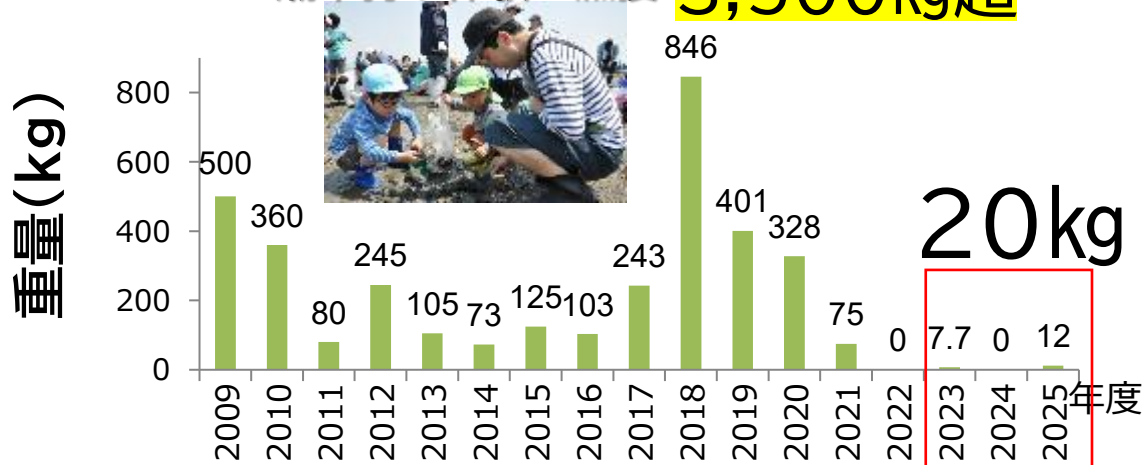
里海再生活動の経緯と成果

生物多様性の確保

ほとんど獲れなくなっていたアサリが復活！！
近年減少傾向のアサリを復活へ（資源再生）



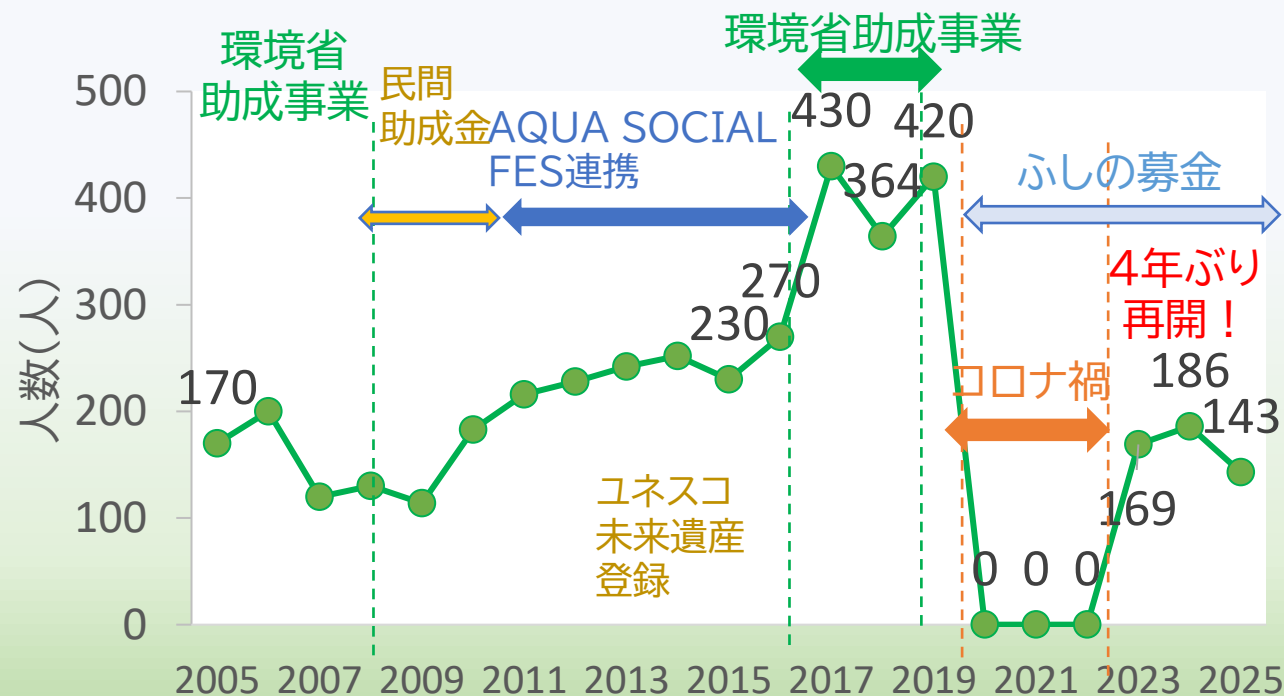
潮干狩り体験・漁獲 **3,500kg超**



注) 潮干狩りやイベント配布分を含む。

『多様な主体の連携』

- ・里海再生活動に関わる人はコロナ後も確保
- ・ファンクラブ持続
- ・主要な関係者の高齢化、減少



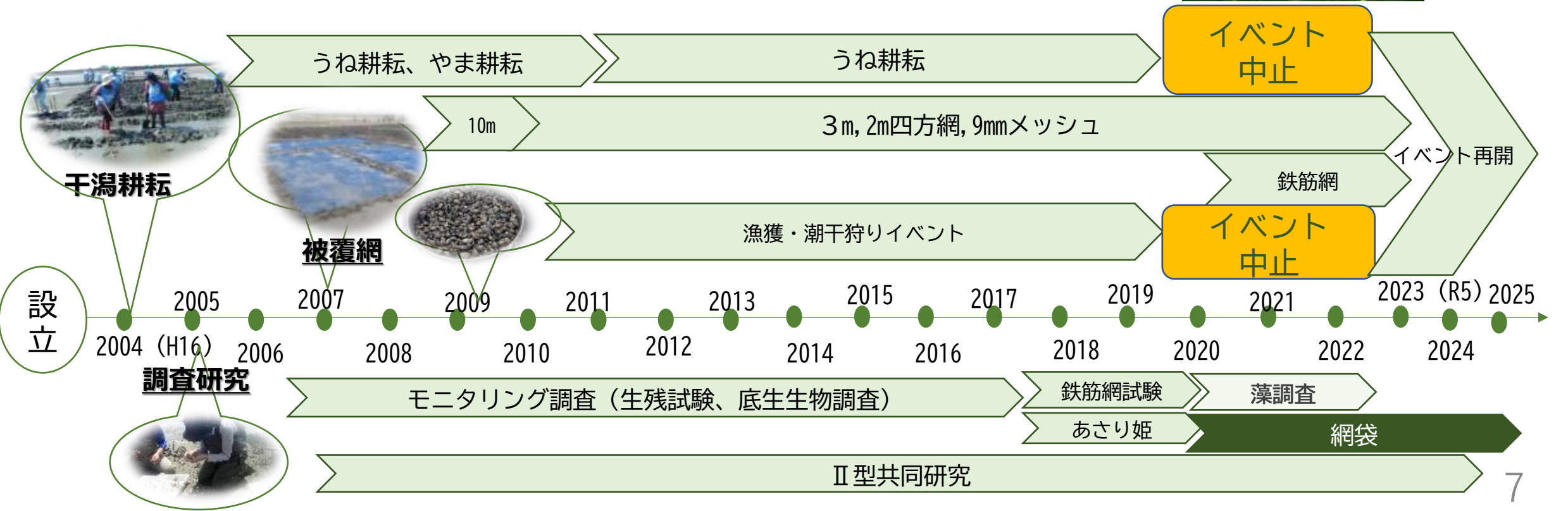
春の干潟再生活動参加者数

4000人超

干潟・水産資源再生の経緯

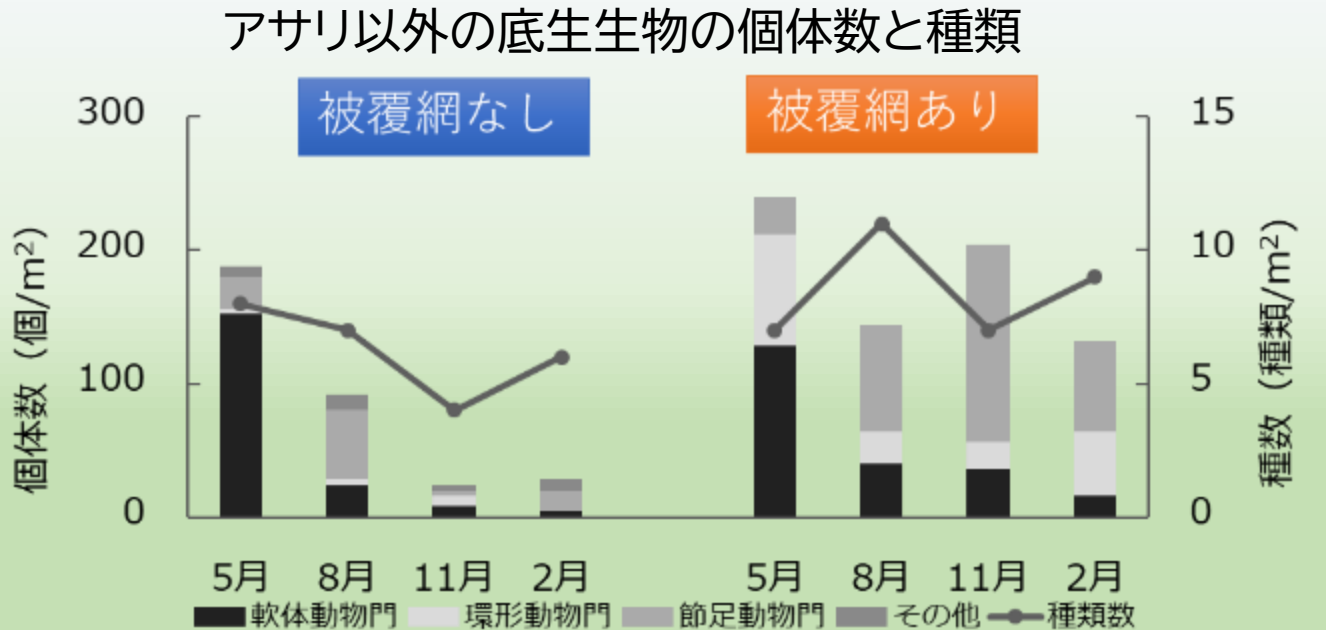
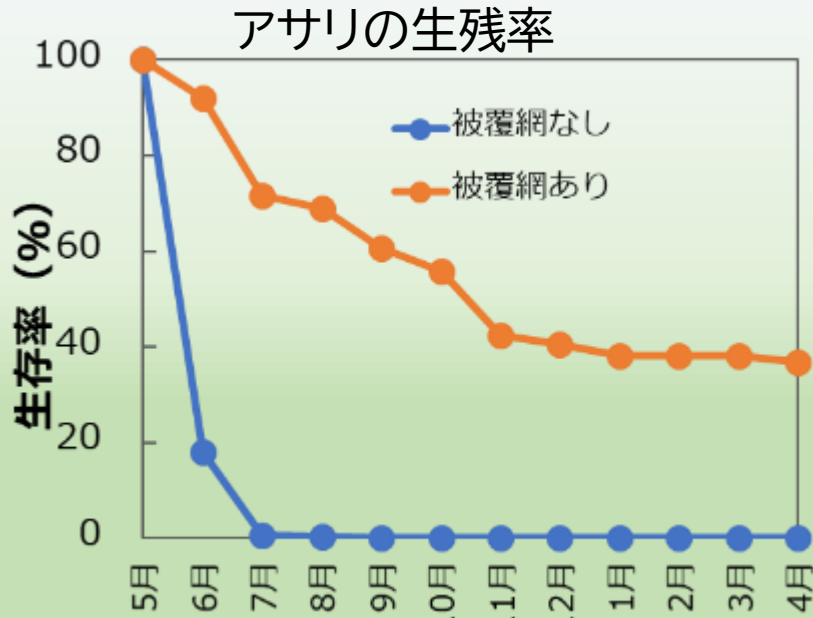
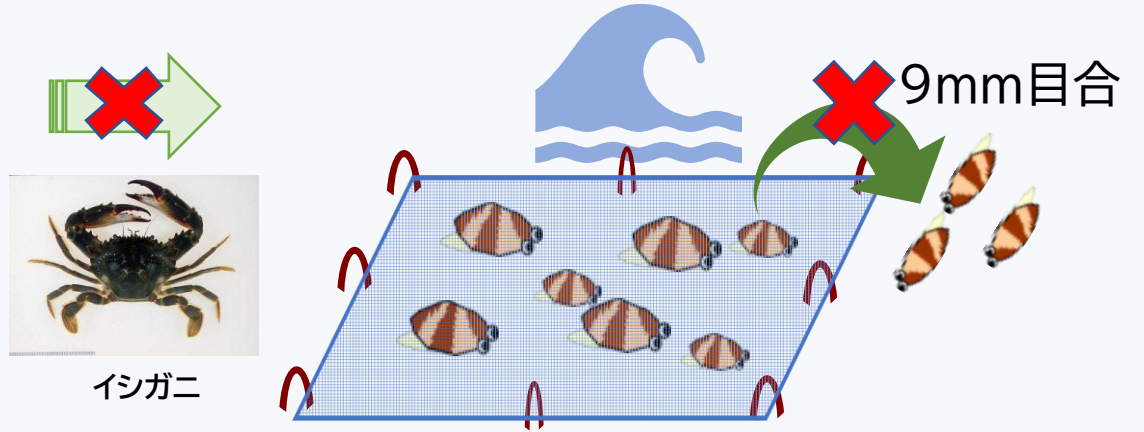
生物多様性の確保

『活動』の価値（得られる恵み）の見える化のための『指標生物』



被覆網による保護

食害等を防ぎ、アサリの生残率や個体数増加には必須、アサリ以外の底生生物も増加



被覆網による保護の状況と課題

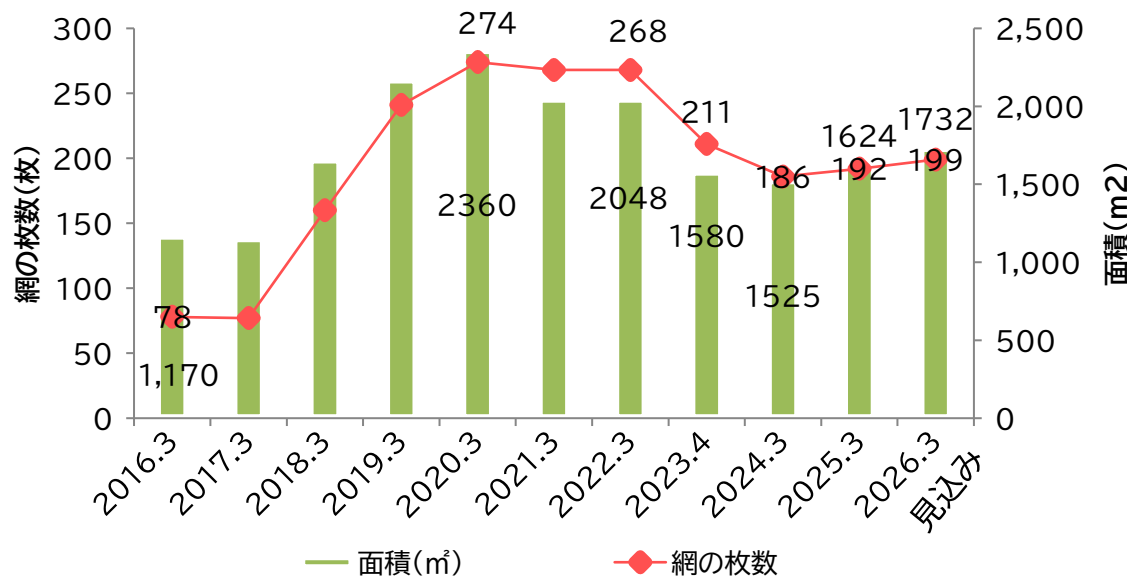
管理の負担が大きくなり、管理不足になっている。➡効率化を検討する

課題

- ・ 藻の付着や、砂の被覆により、網の張替えに多大な労力（重量増）
- ・ 漁業者等 活動主体が高齢化による作業減、大規模な定期的メンテナンスが困難

対応

- ・ アサリ保護効果が少ない被覆網の撤去 ➡管理可能な枚数まで減らす
- ・ 網袋を用いたアサリ保護・育成法（大野方式）の導入 ➡ アサリ稚貝を保護する



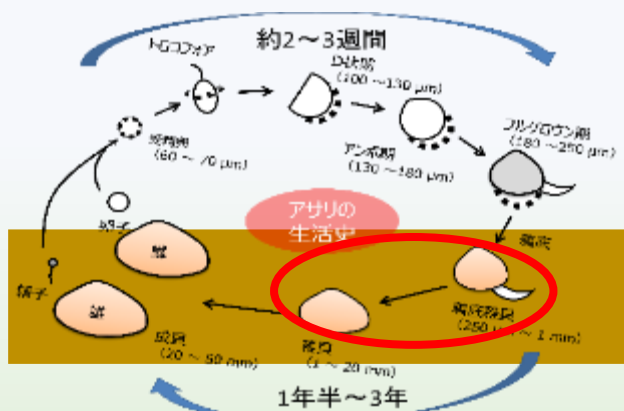
被覆網管理の新たな手法の検討：大野方式

干潟上のアサリ稚貝を確保し、網下に放流することで被覆網の設置数を集約・調整
 →管理の人手不足、作業効率化の一手に

実施方法

大野方式：アサリの着底時の稚貝を、砂ごと網袋にに入れて保護する方式

アサリの生活史




秋産卵、春産卵
(2サイクル/年)

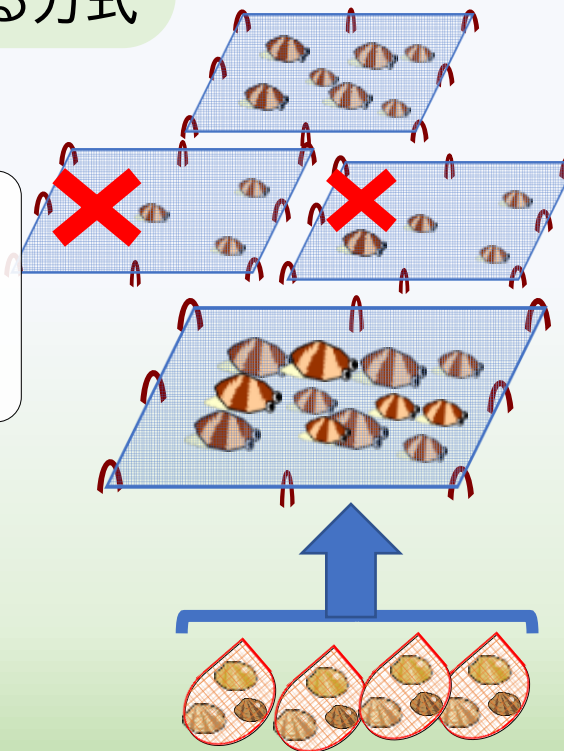
アサリの生活史の概要

出典：栽培漁業の手引き（2012：山口県）を一部加工

広島県大野瀬戸での方式(大野方式)

			
①稚貝分布調査 アサリ稚貝高密度分布域を確認	②稚貝採取 ・視認サイズ 殻長約2～4 mm ・網袋に確保	③保護育成 ・採取場所の干潟で10 mm程度まで網袋で育成	④被覆網へ放流 ・成貝まで保護

春→夏
3か月



出典：水産多面的機能発揮対策情報サイト
 抜粋 <https://hitoumi.jp/torikumi/wp/jisseki/2487>

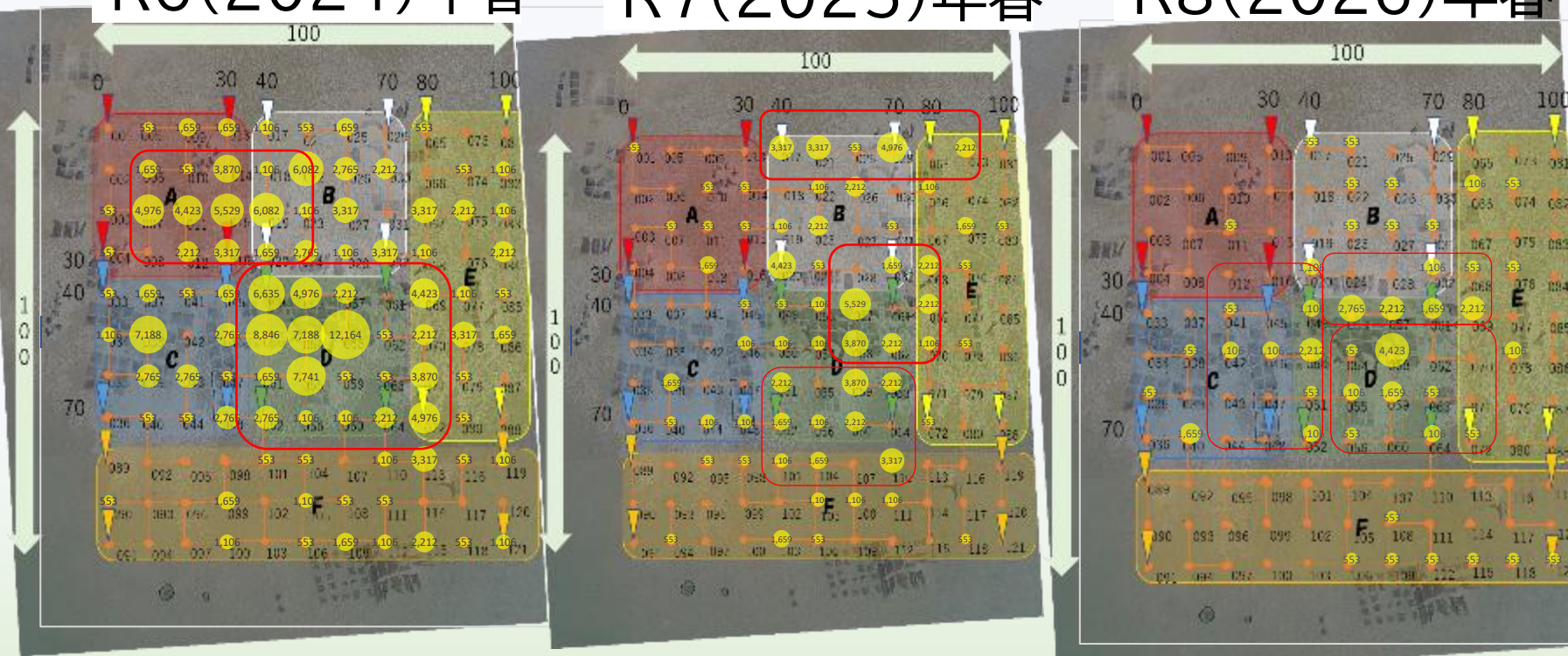
①稚貝分布調査の結果

単位 個数/m²

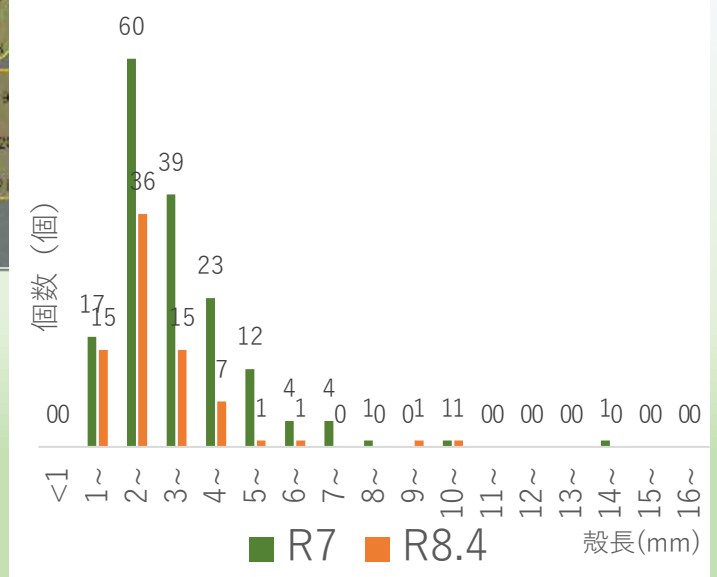
R6(2024)年春

R7(2025)年春

R8(2026)年春



	R6	R7	R8.4
個数	376	162	80
平均(mm)	3.51	3.49	2.96
最大(mm)	16.68	14.99	10.1
最小(mm)	1.49	1.33	1.1



②稚貝採取 ③保護育成 ④放流

4/26 榎野川河口干潟再生活動2025 143名参加



○採捕 3cm以上アサリ12kgを収穫し、参加者に配布



○網袋設置(アサリ稚貝保護) 干潟に花をさかせよう!
寄附付き網袋 赤:49袋 全体配布 緑:84袋 計133袋

○網袋開封(前年春~当該春までに)複数回 234袋 開封

合計 80kgを放流(69000個~81000個)

→網袋は設置後1年でも放流できる
管理効率化をさらに進めることが可能に。

11/3 榎野川河口干潟再生活動2025秋

(ファンクラブ・協議会限定)

アサリのすまいおひっこし大作戦&ミニ生き物観察会
26名参加



重量 12.4kg 放流、
個体数 10,600~16,318個体
216~333個体/袋

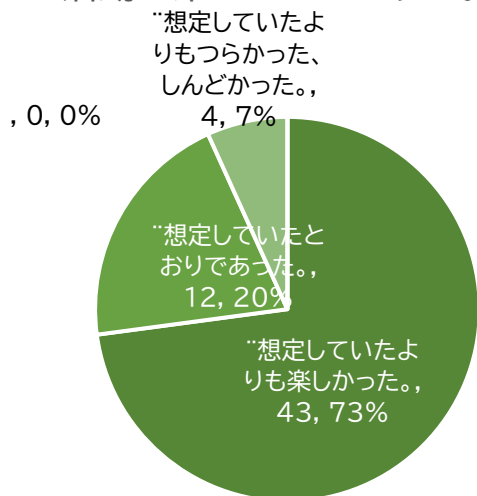
イベントの実施 アンケート

榎野川河口干潟再生活動2025

2 回答者 59名

(対象者 一般110名 53%)

活動は楽しかったですか。(1つチェック☑)

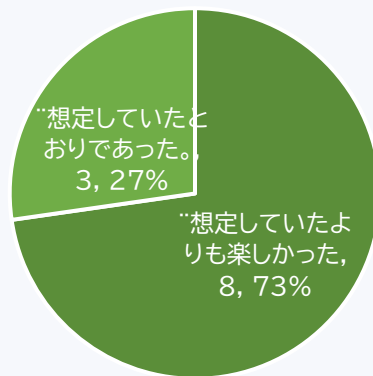


- ・以前取ったアサリが大きくなっていた事、カブトガニを見れたこと
- ・再生活動に参加していることを実感できること
- ・昨年より楽しかった。
- ・アサリの生長に感激しました。
- ・**昨年は全然取れなかったけど、今年は取れて楽しかった。**
- ・うまったところ(笑)
- ・干潟の様々な生物を観察しながら作業ができた。
- ・生きているアサリを直で触れるのが良い
- ・**アサリ再生のために一体感があり達成感が得られた**
- ・干潟で活動する機会があまりなく良い経験だったため
- ・様々な干潟の生き物を観察することができてよかった。
- ・幼体から大人のアサリまで見れた。

榎野川河口干潟再生活動2025秋

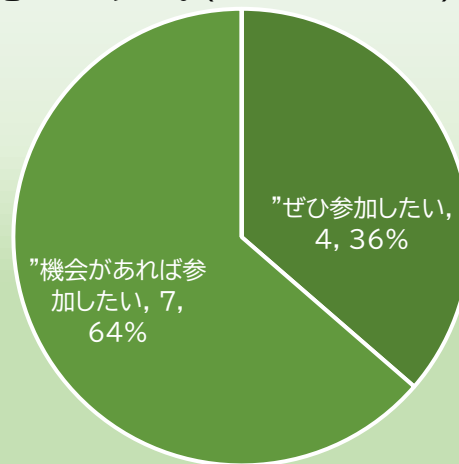
回答者 11グループ/個人(対象者 一般16名)

活動は楽しかったですか

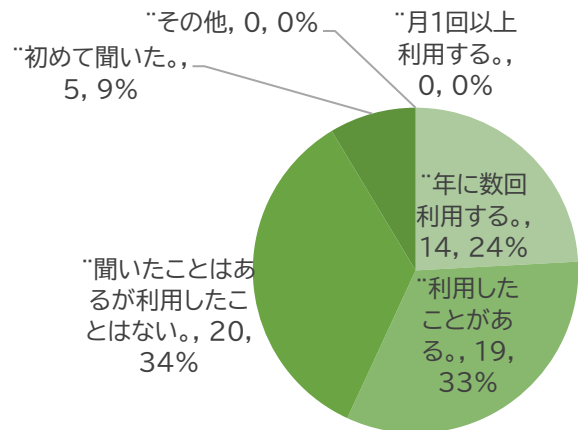


- ・近くの海で見ることができない生物をみることができた。
- ・**普段見ることのない干潟の生き物が見れたこと。**
- ・アサリの稚貝や、様々な説明が聞けたこと
- ・子どもたちがたくさんの生き物を見つけってくれた
- ・色々な生物が見れたところ。
- ・お子さんの反応が見れて楽しかった。
- ・**子どもたちの反応が見れて楽しかった**
- ・いろいろないきものがいたこと
- ・小さなアサリをたくさん観察できたところ
- ・あさりの成長具合を直に確かめられたこと

きらら浜自然観察公園で、山口湾と同じくアサリ潮干狩り体験などができるようになった場合、参加してみたいと思いますか。(1つチェック☑)



隣接する、新光産業きらら浜自然観察公園を利用したことがありますか。



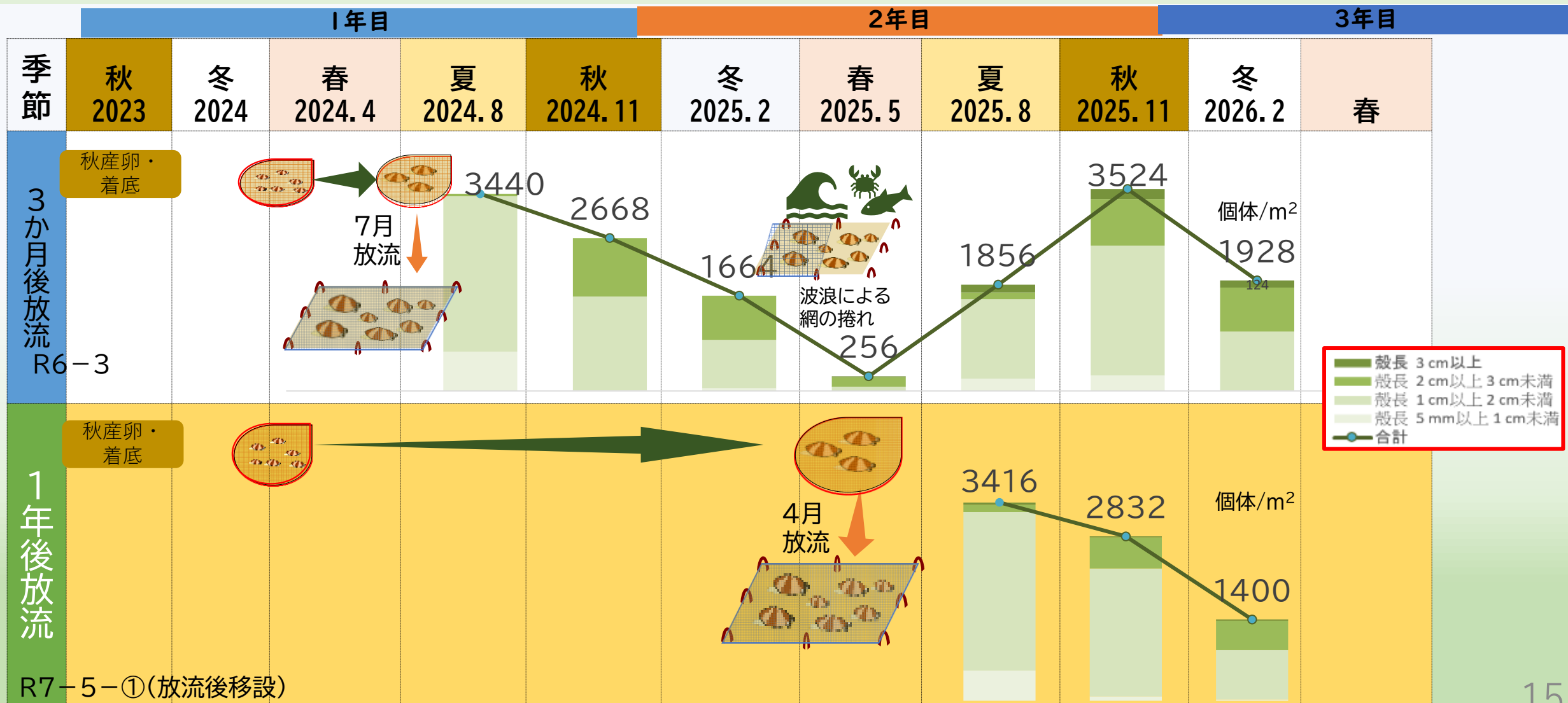
②稚貝採取・③保護育成・④放流

年度	春休`外 参加人数	網袋総数 (枚)	破損・損失 枚数(枚)	開封総数 (枚)	網袋残 存率	アサリ総湿 重量 (kg)	1袋当たり重量 (kg/袋)	放流個体数 (推計)
2023(R5)	169名	131	35	96	73 %	18.6	0.19	約12,000 個
2024(R6)	186名	238	4	234	98 %	80.8	0.35	約69,000～ 81,000 個
2025(R7) (2026.2月現在)	143名	133	0	49	63%	12.4	0.25	約10,600～ 16,000 個
合計	498名	502枚				111.8kg		109,000個



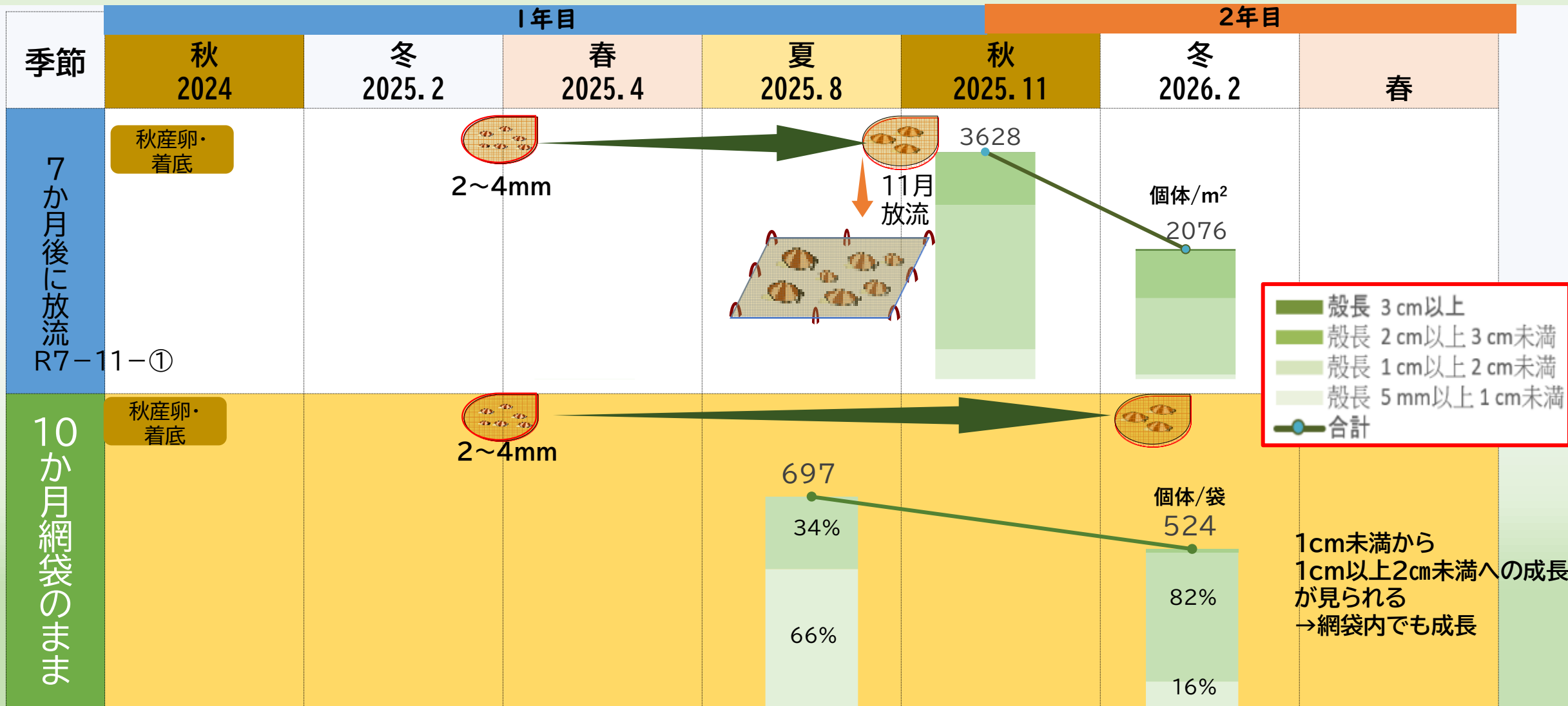
調査①：網袋から被覆網下への放流時期の違いによるアサリ密度、殻長の変化

- 2024.4に網袋設置、3か月後放流と1年後放流の違いを調査
- 2026.2時点では殻長割合、生残密度はいずれも同程度



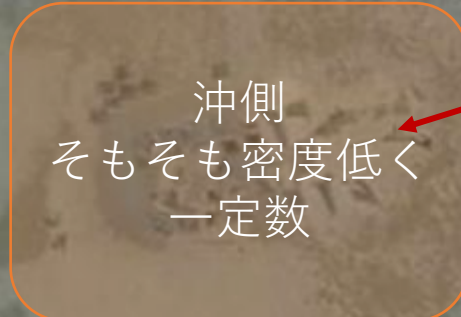
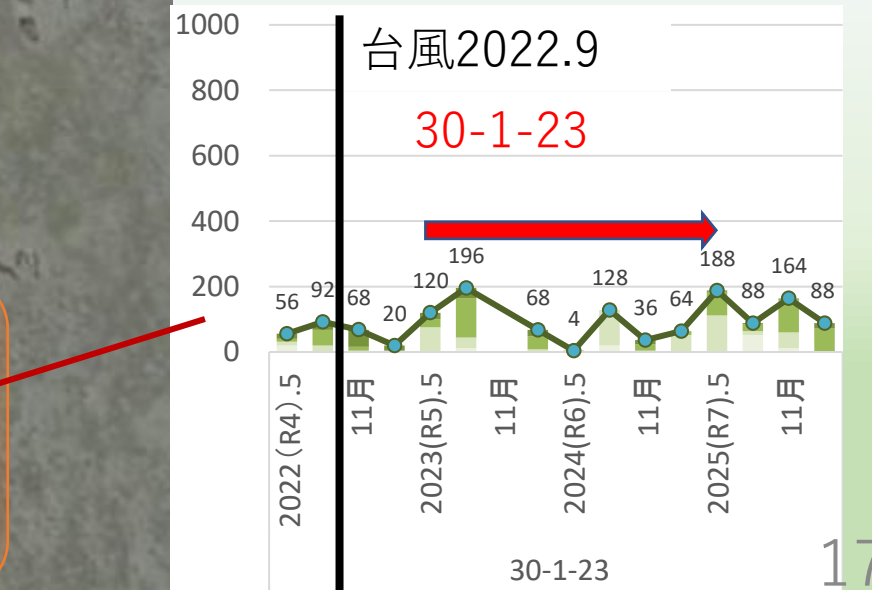
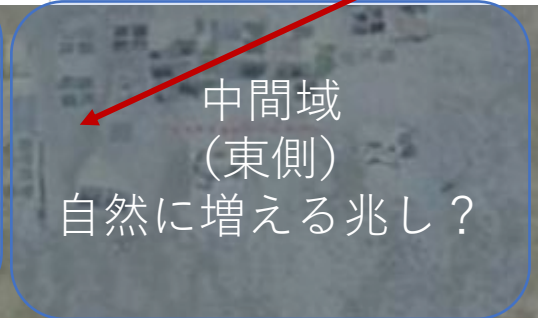
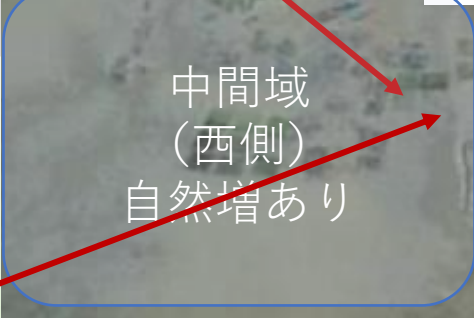
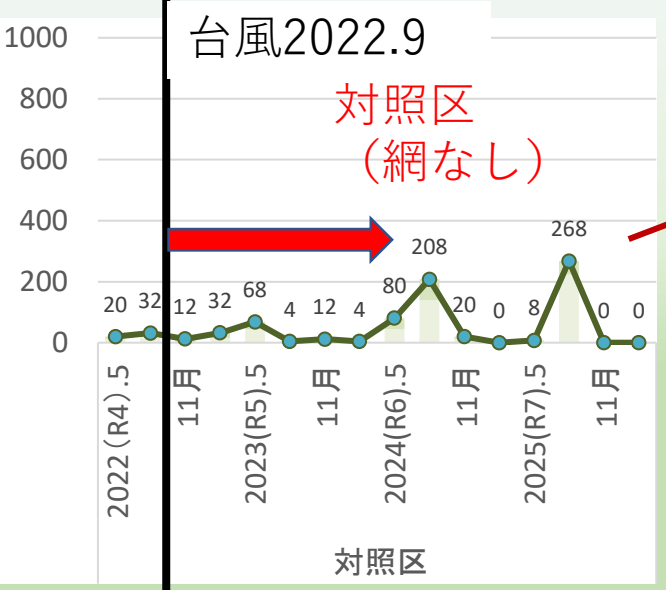
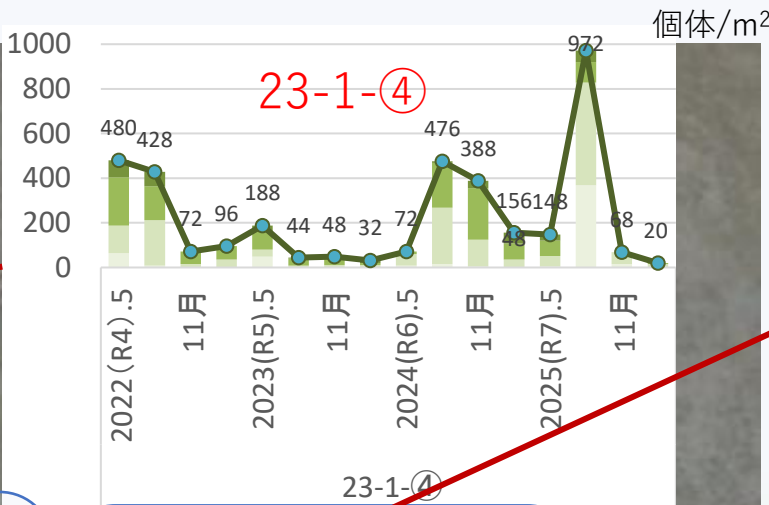
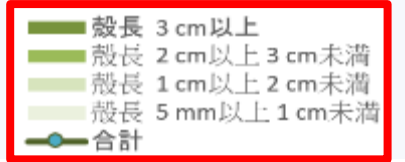
調査②：成育環境の違いによる比較について

- ・ 7か月後に被覆網放流と、網袋のまま成育した場合を比較
- ・ 両方とも順調に成長（殻長の違いは見られるが単純比較ができない）



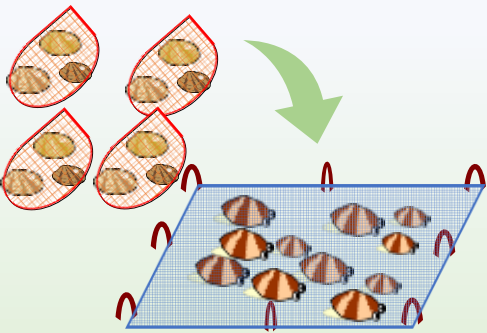
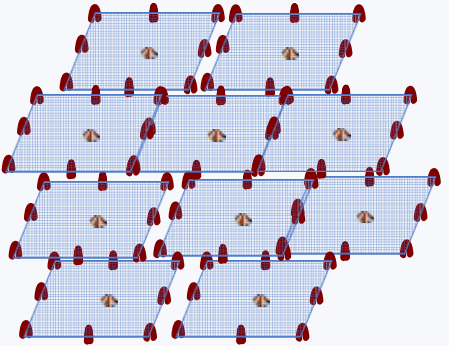
モニタリングの結果 アサリ個体数密度 2022.5~2026.2

- ・ 中間域は自然増加が見られ、アサリの回復の兆しあり。
- ・ 潮干狩り後も増加 (R5移植、R7潮干狩り)



網袋方式の効果（効率性）2024-2025 実績

「広げる」(量) から「守り抜く」(質)



	殻長3cm以上	被覆網1枚(9m ²)当たり 個体数、重量	
自然増(被覆網)	48~176 個/m ²	1900~5200 個体/枚	3~12 kg/枚
	↕ 3~10倍差	↕ 3~9倍差	↕ 2~8倍差
網袋法	476 個/m ²	17000 個体/枚	26 kg/枚

2024・2025年度2月時点

2025年度平均

資源量は、個体数、密度を比較し、2倍～最大10倍となる
→被覆網の枚数を1/2～1/10に減少

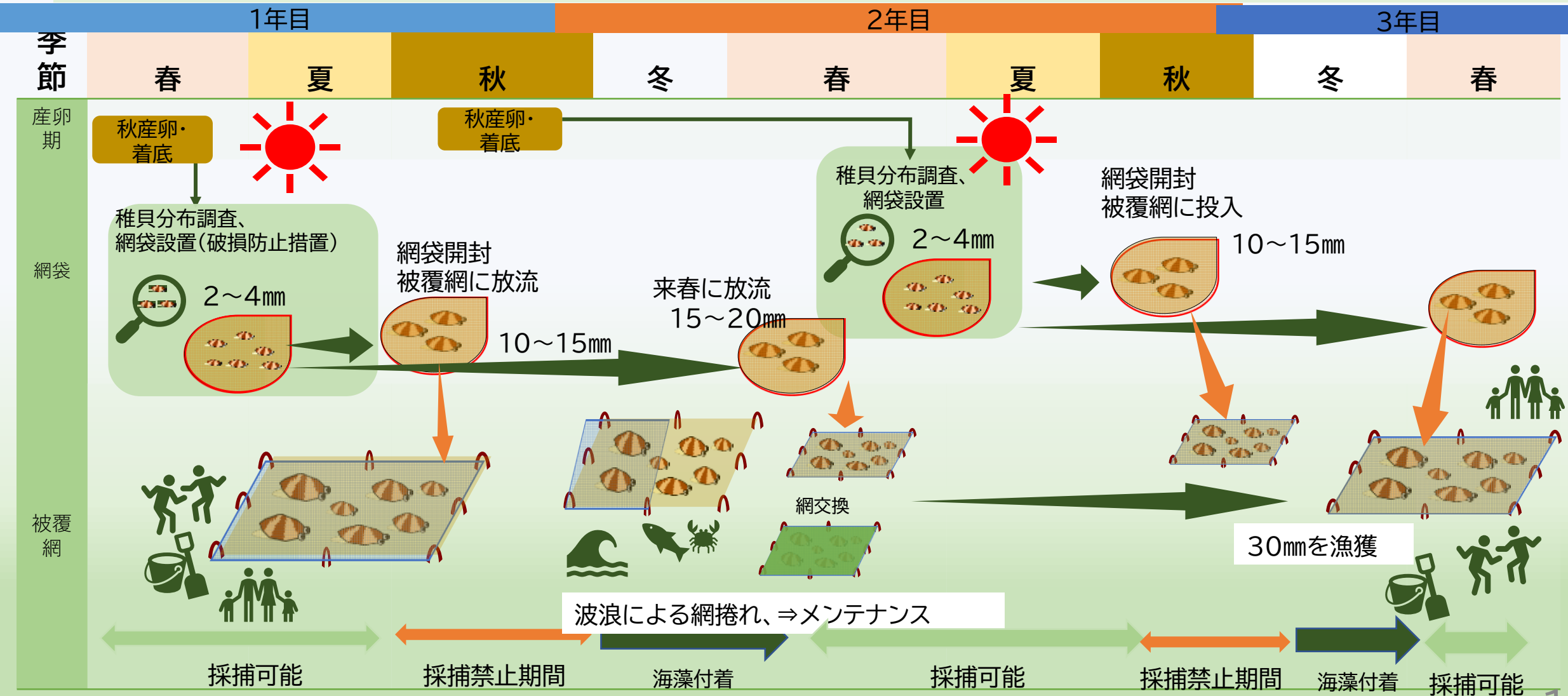
管理不可能な広大な被覆網は思い切って撤去

労力を減らしながらアサリの絶対数を確保

1枚当たりの個体数密度の増加(過密)
→間引き管理を年1回行い、数を調整する

網袋法の流れ:春に設置し、秋又は翌年の春 放流、採捕は3cm以上で間引き

網袋を用いて、稚貝を保護・育成 → 秋に被覆網下に放流し、確実にアサリ資源を保護
 ※網袋は、秋放流と、次年度のイベントまで網袋のまま分けることができる。(リスク分散)



今後の活動（案）

稚貝確保は干潟全体で。被覆網は集約化し、現在の1/3程度で管理を効率化(現状の個体数は確保)



山口湾アサリ応援プロジェクト実績 (2024,2025)

- 網袋方式によるアサリ保護・育成手法を住民参加により実施
- 里海の再生に向けて、効率的な管理体制の検討を継続
- アサリの地産地消を通じて、活動を応援したい人を呼び込み活動の活性化



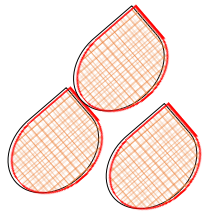
活動に参加し
応援したい人



寄附付き商品購入・設置
(せんべい+網袋)

活動費に一部寄附

潮干狩り等で還元



協議会



活動の継続・活性化

ふしのせんべい+網袋セットの販売
200円/セット

試行



地産地消を
応援したい人



寄附付商品として販売

売上

活動で
とれたアサリ

活動費に
一部還元



地元漁協

年	準備数	売上数	寄付額 (コスト除いた金額)
2024	50 セット	50 セット	5140円
2025	100 セット	67 セット	4000円

みんなでつくり、育て、つないでいく里海へ

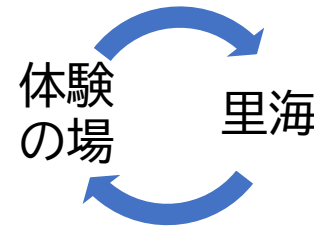
- ・これからの環境変化(気候変動等)に対応する
 - ・藻場・干潟や生物多様性を適切に評価・価値を発信する
 - ・関係者・ファンも持続可能、発展(理念・技術の承継、多様な人々の交流)
- 持続可能な取組
→山口湾の価値の認識を深める
→環境学習・体験場所・機会の創出



きらら浜自然観察公園

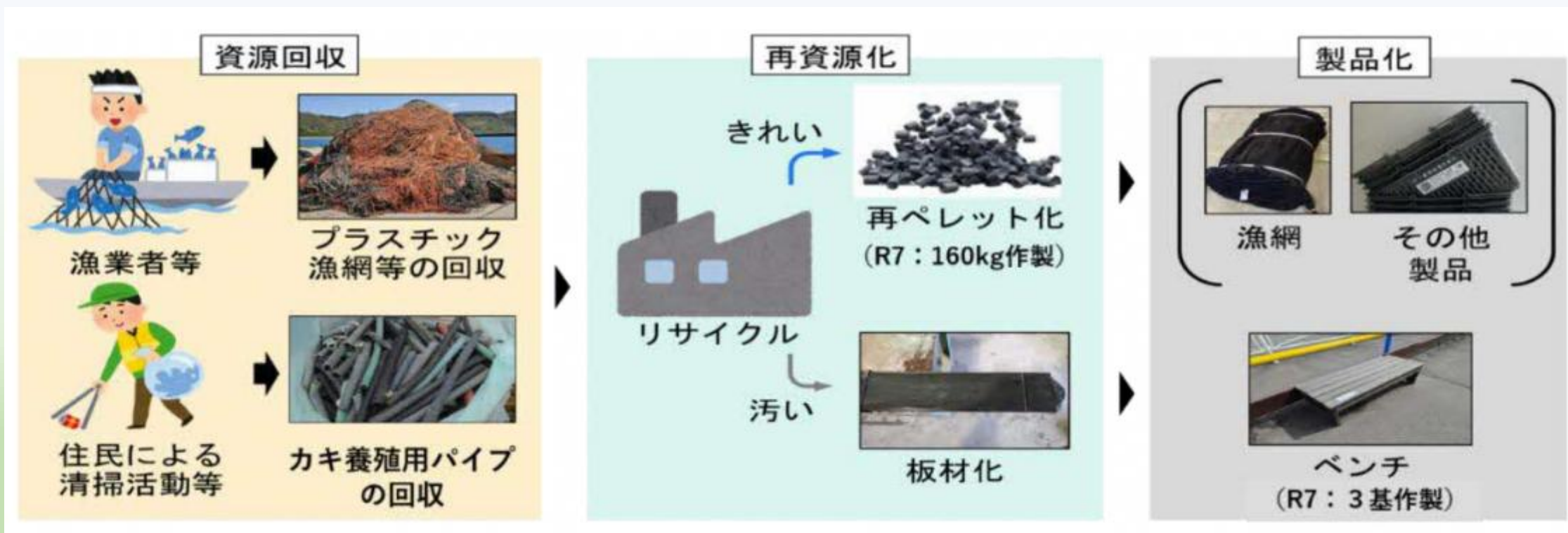


河口干潟(南潟)



被覆網のリサイクル（検討中）

リサイクルの方法、前処理方法などを検討し、環境負荷を低減した活動を目指す。（山口県）



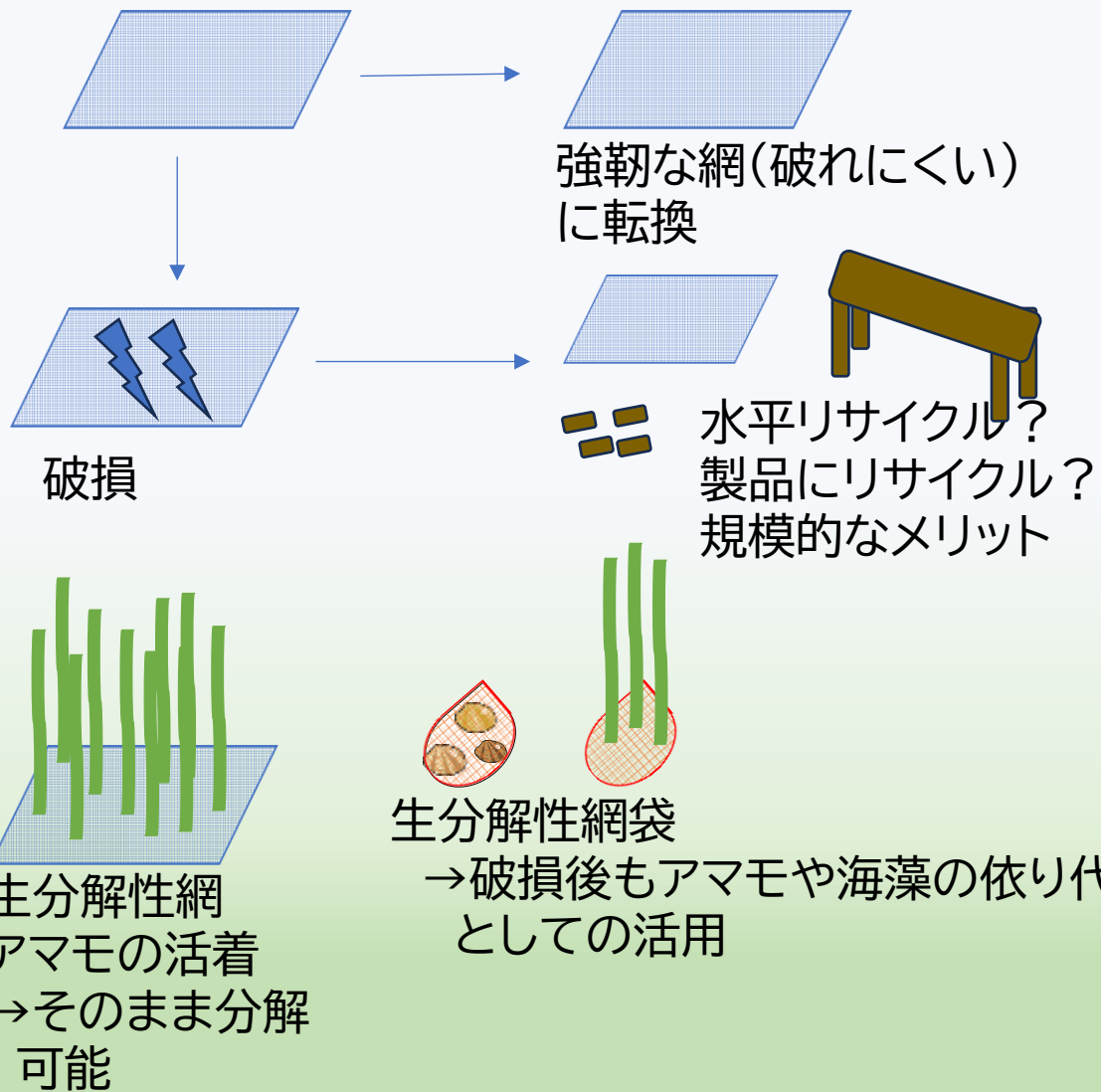
プラスチック資源化促進事業（山口県海岸漂着物処理推進協議会資料）から抜粋

持続可能な活動へ（検討中）

◆ 生分解性プラスチックを用いた海洋資材の開発

生分解性プラスチックを用いた海洋資材（漁網・ロープの漁具材料やイカ針、タコ壺、カキ管、土農換・フロートカバー（フィルム）等）を開発しています。海洋環境における分解性を有する生分解性プラスチックを用いた海洋資材であれば、損傷あるいは荒天によって海に流出した際にも、近年問題視されているマイクロプラスチックとして海に残留することなく、分解され自然に戻るため、環境への負担を軽減できます。

※これらの取り組みは、
 環境省「令和2年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」
 水産庁「令和2年度水産分野における持続可能なプラスチック利用対策事業」
 水産庁「平成30年度・令和元年度漁業における海洋プラスチック問題対策事業」
 の一環として実施しているものです。



◆ 廃棄漁網リサイクル

不要になった漁網(漁業漁網)を回収して、漁網などの製品に再利用する取り組みを行っています。将来的には、海洋資材（漁網・ロープ等）のリサイクルチェーンを完成させ、海洋ゴミや二酸化炭素排出量削減を含めた環境への負担軽減を目指します。

※これらの取り組みは、
 環境省「令和2年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」
 水産庁「令和2年度水産分野における持続可能なプラスチック利用対策事業」
 水産庁「平成30年度・令和元年度漁業における海洋プラスチック問題対策事業」
 の一環として実施しているものです。



◆ 環境変動に対応する新型漁具・漁具材料

化石燃料の高騰や漁業就労者の高齢化など漁業環境を取りまく変化に応じた漁網漁具を新規設計・開発しています。また、漁網漁具の適性に優れたUC (Ultra Cross) ネット、大目合および高強度繊維を活用した省エネ・省力漁具の設計・開発や、流体力特性に優れた異形組紐ロープ（低抵抗性能を有する）、地球環境との調和を実現できる生分解性網糸・ロープを開発しています。

